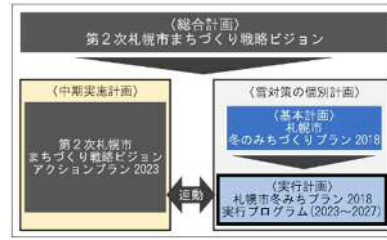


1 札幌市冬みちプラン 2018 実行プログラム(2023~2027)の策定目的 (P.1)

札幌市冬のみちづくりプラン 2018 の実効性を確保するため、特に推進すべき取組を「主な取組」として位置づけ、その進行管理を行うこと



実行プログラムの計画期間



実行プログラムの位置づけ

2 雪対策を取り巻く現状と課題 (P.2)

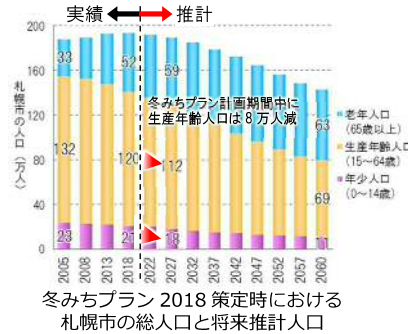
課題1 市民ニーズに対応した除排雪

課題2 危ぶまれる除排雪体制

課題3 増大する除雪予算

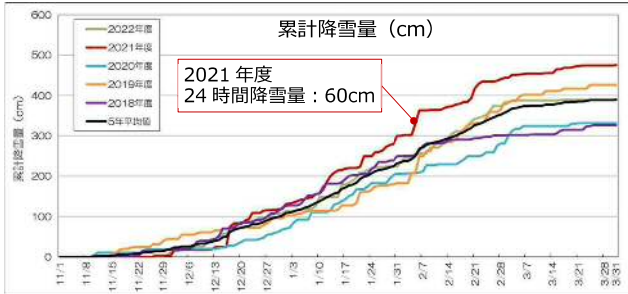
課題4 市民との協働による雪対策

課題5 雪対策に対する市民意識

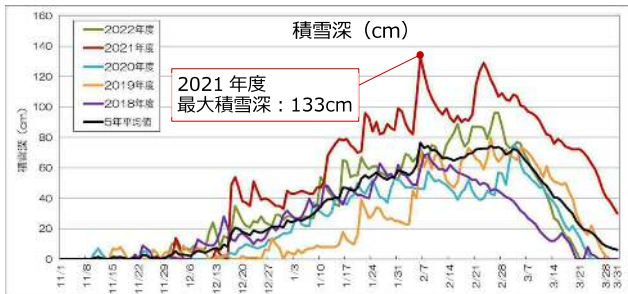


冬みちプラン 2018 策定時における札幌市の総人口と将来推計人口

【過去5年間における札幌市の気象状況(11月~3月)(札幌管区気象台)】



道幅が狭い幹線道路(2021年度)



道幅が狭い生活道路(2021年度)

特に2021年度(令和3年度)は想定を大きく超える大雪に見舞われ、公共交通機関の運休や市内各所での渋滞発生、生活道路除排雪の大幅な遅れなど、市民生活に大きな影響が及んだ。

3 札幌市冬のみちづくりプラン 2018 の概要 (P.4)

【目指すべき将来】  
安心・安全で持続可能な冬の道路環境の実現

- 視点1 安心・安全な冬期道路交通の確保
- 視点2 除排雪作業の効率化・省力化
- 視点3 除排雪体制の維持・安定化
- 視点4 雪対策における市民力の結集
- 視点5 雪対策に関する広報の充実

4 札幌市冬みちプラン 2018 実行プログラム(2019~2023)の主な取組と今後の進行管理 (P.5)

各視点において計106項目の取組を掲げ、それらについて具体的な実施内容や実施目標を定めて進行管理を行った。

【札幌市冬みちプラン 2018 実行プログラム(2019~2023)における主な取組】

- ・視点1 安心・安全な冬期道路交通の確保 ⇒パトナーシップ 排雪制度の排雪断面の選択制導入  
大雪時のフェーズに応じた対策の設定など
- ・視点2 除排雪作業の効率化・省力化 ⇒新川融雪槽の能力増強



整備前



整備後(投雪口2か所増)

- ・視点3 除排雪体制の維持・安定化 ⇒雪堆積場への週休日導入
- ・視点4 雪対策における市民力の結集 ⇒砂まき活動や除雪ボランティア活動における広報動画の作成、放映
- ・視点5 雪対策に関する広報の充実 ⇒雪体験授業の幼稚園への拡大(雪体験教室)やLINEによる情報発信



雪体験教室



LINEによる生活道路の新雪除雪出動情報のお知らせ

【今後の進行管理】

	拡充	新規・拡充 ⇒ 継続	継続	合計
視点1	9項目	15項目	16項目	40項目
視点2	7項目	10項目	5項目	22項目
視点3	3項目	8項目	7項目	18項目
視点4	1項目	9項目	3項目	13項目
視点5	1項目	6項目	6項目	13項目
合計	21項目	48項目	37項目	106項目



## 5 札幌市冬みちプラン 2018 実行プログラム(2023~2027)の主な取組と実施内容 (P.12~28)

札幌市冬みちプラン 2018 実行プログラム(2023~2027)では、昨今の社会環境の変化に対して柔軟に対応するべく、ICT といった先進技術の活用 (DX)、気候変動への適応、脱炭素社会や働き方改革などを踏まえ、主な取組を推進。

<視点ごとの取組>

赤枠：特に力を入れる取組

### 【視点1 安心・安全な冬期道路交通の確保】(P.12~16)

除排雪作業を工夫しながら限られた人員・体制においても、これまでの除雪水準の維持を目指す。

- 1 バス路線除排雪作業の強化 (129km→275km)  
⇒路肩の狭いバス路線の一部について、排雪強化を行う延長を段階的に増加
- 2 生活道路の除排雪方法変更に向けた検討  
⇒除雪従事者の減少や市民ニーズの変化など様々な観点から検討を推進
- 3 老朽化したロードヒーティングの計画的な改修 (3,500~7,000m<sup>2</sup>/年で検討)  
⇒改修時期を平準化し、持続的な運用を図る
- 4 大雪時の対応指針を基本とした体制の確保  
⇒全庁的に情報共有を図りながら、迅速かつ適切に対応大雪に備えた体制確保のさらなる検討・調整



排雪後のバス路線

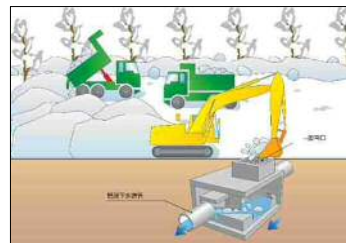
### 【視点2 除排雪作業の効率化・省力化】(P.17~22)

持続的に除排雪作業を進めるため、ICTなどの先進技術を活用し、作業の効率化や省力化を進める。

- 5 除雪機械の1人乗り化  
⇒安全補助装置を設置し1名乗車を可能とした除雪機械や1人乗り機械の導入 (175台→390台)
- 6 雪堆積場選定システムの構築  
⇒運搬距離の縮減に向け、全市的な視点で排雪現場からの搬入先を選定するシステムを段階的に運用
- 7 除雪機械の運行管理の効率化  
⇒位置情報に加え、速度、走行時間などを記録する端末の導入の検討や、執行管理等システムの再構築を実施
- 8 ビッグデータを活用した作業支援の検討  
⇒作業判断や隣接区との調整が容易となるよう、気象データ、映像・画像データなどのビッグデータの活用を検討
- 9 雪堆積場の運用見直し  
⇒車両管理システム及び一般排雪車両の画像解析の導入 (車両管理システム：本格運用 2024年~)
- 10 雪処理施設の大規模改修  
⇒持続的な運用に向け、下水道施設の改修時期に合わせて実施
- 11 新たな融雪施設の整備  
⇒東部水再生プラザの処理水を利用した融雪槽や、下水道管を流れる未処理下水を利用した地域密着型雪処理施設の整備 (仮称)東部融雪槽：本格運用 2026年~ (地域密着型雪処理施設：本格運用 2027年~)



東部水再生プラザ



地域密着型雪処理施設

### 【視点3 除排雪体制の維持・安定化】(P.23~26)

企業の経営の安定化に資する取組や労働環境の改善、人材の育成を支援し、除排雪体制の維持安定化を図る。

- 12 除雪事業に参画する企業の人材確保への支援策  
⇒札幌市の除雪事業に参画する企業を対象に、企業の紹介や求人情報を幅広く周知するなどの支援策を推進



高校生を対象とした職業体験イベント 出展状況



- 13 作業日報などの提出書類の電子化  
⇒作業日報などの提出書類の一部について、ICTを活用した電子化を図る (本格運用 2026年~)
- 14 市民対応の効率化に向けた検討  
⇒ICTを活用した電話対応の効率化や、除雪センターの体制について検討

### 【視点4 雪対策における市民力の結集】(P.27)

地域レベルの除雪に取り組み地域団体や企業のボランティア活動を支援し、地域の除雪力の向上を目指す。

- 15 除雪ボランティア活動に対する支援  
⇒除雪用具貸出制度などに加え、除雪ボランティアの拡大につながる更なる支援策を推進



支援策 (除雪用具の貸出) を活用した大学生の除雪ボランティア



支援策 (小型除雪機の貸出) を活用した企業の除雪ボランティア

### 【視点5 雪対策に関する広報の充実】(P.28)

市民が快適な冬を過ごせるよう、幅広く冬のルールやマナーなどの理解につながる広報を進める。

- 16 様々な広報ツールを複合的に活用した情報発信  
⇒新聞やテレビに加え、SNSやデジタルサイネージなど様々な広報ツールを複合的に活用



テレビ CM



YouTube 動画



デジタルサイネージ